

Close Up

人工関節治療

ひざや

股関節の痛みを治して

楽しく歩きたい。

— 人工関節治療を受ける人達 —

眼内レンズと人工関節治療

私が医師になった平成元年頃と比べてあきらかに治療を受ける人が増えた治療法があります。白内障の眼内レンズとひざや股関節の人工関節治療の二つです。これらの治療に共通するのは、程度の差こそあれ元になる病気が年齢とともにほとんどの人に起きることです。年をとると、足腰が衰えて歩きづらくなる…。目は見にくくなり、耳は聞こえづらくなる…。「年には勝てないよね」そう言っている多くの人が生活しています。もう一つ共通点があり、治療効果が高いということ。白内障で濁ってしまったレンズを取り替えば、曇った視野はすっきりと見えるようになります。同じように、傷んだ関節を人工関節に替えば、関節周囲の痛みは別として関節自体の痛みはほとんどなくなります。最近では、知り合いが治療を受けたので私も治療してほしいと病院にくる人も増えてきました。

人工関節治療を勧められる人

ひざや股関節の痛みが強くて薬や湿布、注射では痛みが取れず、日々の生活や仕事に支障をきたしている人がいます。そのうちレントゲン検査で関節の軟骨がなくなつて土台の骨が削れてしまっている場合は、人工関節治療を勧められることとなります。

痛みがそれほどなくても治療を勧められる人

ひざと股関節と背骨は密接な関係があり、どれか一つの不具合がほかの部位に影響をおよぼすことがあります。家にとえれば背骨は大黒柱で、ひざや股関節

この先生に聞きました



倉敷リバーサイド病院
人工関節センター長
川口 洋

【平成元年】
防衛医科大学卒業
【平成5年～】
倉敷中央病院
【平成18年12月～】
倉敷リバーサイド病院
経験手術総数8000件
人工関節の手術数2100件



は家の基礎を支える杭のようなものです。基礎にあたるひざや股関節の不具合で脚に十分な体重がかからなければ大黒柱の背骨が傾き、家が倒れる危険性があるのです。長年ひざを酷使してO脚が強い人や、小さい頃から股関節がずれている人では、痛みがそれほどなくても歩くときに大きく上半身がゆれて背骨に負担がかかっています。長い時間、背骨に負担がかかるると背骨の節が出っ張ったりずれたりして、神経を圧迫して坐骨神経痛で歩きづらくなる可能性があるのです。そういう人達には将来を考えて人工関節治療を勧めることがあります。

「○○だから治療しなうほうがSS」 がなくなってきた

人工関節治療は20年前までは特殊な治療で、大きな病院で限られた人たちだけが受ける治療でした。治療を受けるにあたっていろいろな制限もありました。「まだ若いから60歳までは治療しないほうがいい」、「80歳と高齢だから」、「生まれつきのものだから」、「痛みは我慢すればなんとか生活できているのだから」、「人工関節は長持ちしないから」などです。これらのほとんどの制限は最近の医療技術の発達によりなくなりました。正座ができない。

床に腰をおろして、ひざをそろえて伸ばすとひざの裏と床の間に隙間ができる。あぐらがかけない。ひざを抱えて胸にくっつける体育座りができない。歩くときに上半身が左右に揺れる。などの症状に心当たりがあれば人工関節治療の専門医に一度相談してみたいと思います。

人工関節治療の恩恵

岡山県でも1970年代より人工関節治療は始まり、実際に40～50代に手術を受けて入れ替えをすることもなく今年で30年目という人達がいます。人工関節治療はその治療によって90歳の寿命が100歳まで直接寿命を延ばせるといった治療ではありません。ひざや股関節の痛みで健康な同年齢の方と比べて歩きにくいといった症状を改善し、年齢相応に楽しく歩けるといった生活の質を改善する治療なのです。しかし、もし治療をせずにひざや股関節の痛みが悪化し、歩きづらくなって運動する機会が減れば、本来なら90歳までの寿命が85歳まで短くなることもあります。そういう意味では病気で短くなる寿命を本来の寿命まで間接的に延ばすこととなります。人にとって二本の足で歩くということ、頭で考えるということは、人が人たる最も根本的な活動なのです。人工関節治療はそういった面でも注目を浴びています。